

## 和漢薬の科学基盤形成拠点 研究集会（共同利用・共同研究拠点）報告書

研究集会 タイトル	第 13 回天然薬物研究方法論アカデミー覚王山シンポジウム
主催者	愛知学院大学薬学部 井上 誠
日 時	平成 22 年 8 月 21 日, 22 日
場 所	名古屋市千種区覚王山 ルブラ覚王山
関連分野等（該当 項目に○をつけて ください, 複数可）	1. 資源科学 2. 病態制御 3. 臨床利用 ④ その他
関連分野	漢方研究, 漢方臨床研究
目的と 研究集会の 概略	<p>複合製剤である漢方方剤の薬理作用を解明するためには、既存の生命科学で          繁用されている研究手法は充分ではない。すなわち、患者の病態を統合して診          断された個々人の証に合わせ、経口投与を原則として投与される複合成分より          成る漢方方剤の有効性は、単一化合物による標的療法の解明が主な手段である          生命科学的方法論では解明できない。すなわち、漢方方剤の薬理作用の解明は、          これまでにない観点から有効性を解析するための方法論の開発がなくては不可          能であると考えられる。そこで、本シンポジウムでは漢方方剤の研究方法論の          開発を第一の目的として、漢方研究の成果発表にとどまらず、漢方に精通して          いる医師、薬剤師、漢方研究者、さらには、若手研究者、大学院生により充分          な討論ができる場を提供することである。今回第 13 回目となるシンポジウム          では、漢方研究の厳しい現状を把握し、未来の漢方研究の方向性を見出すた          めに、特別講演 2 題とシンポジウム 2 題を企画し、2 日間に亘り充分な討論を行          った。</p>
和漢医薬学の 科学的基盤形 成および関連 研究者コミュ ニティ形成へ の貢献	<p>昨今の漢方研究を取り巻く状況は非常に厳しいものがあり、研究環境、人材、          教育の問題ばかりではなく、国際的な問題も生じている。そこで、今回のシン          ポジウムでは、「漢方研究の現状と未来を考える：漢方研究再考」をメインテー          マにし、漢方研究における現状を今一度しっかりと把握し、かつ未来の漢方研          究へと繋げるために、幅広い視点から漢方研究について討議した。漢方研究の          難しさは、漢方薬が 1) 天然由来生薬から成る経口投与を原則とする復号製剤          であること、2) 証に基づいて処方されること、3) 未病に適応されることなど、          西洋薬とは異なる漢方薬の特徴にすべて起因している。さらに、研究者数、研          究費、資源の減少、さらに、多くの問題が体系的な漢方研究の発展に影響して          いる。そこで、いろいろな立場で漢方研究、臨床に携わっている研究者、医師、          薬剤師、さらに、薬学研究科大学院生にシンポジストをお願いし、最先端の研          究成果の発表及び臨床現場での経験を通して、漢方研究の課題や問題点に切り          込んでいただいた。また、特別講演では、漢方薬を取り巻く教育、研究、国際          化問題と、漢方研究方法論の変遷についての講演を企画した。両講演を通して、          我々がまさしく今、将来に向けて取り組まなくてはならない問題を提起してい          いただいた。本シンポジウムでは、行政、企業、大学、臨床従事者（医師、薬剤          師他）からの意見の集約を行い、漢方研究の現状が把握できた。さらに、未          来の漢方研究のために漢方研究及び臨床に携わる者が現状を改善するための方          策について議論することができた。漢方研究を発展させるためには、これらの成          果を基に今後さらに具体的な方策の考案、実施を進めて行くことが必要である          と考えられた。</p>

プログラム	<p>8月21日（土曜日）（第1日目）</p> <p>12:30 開会の挨拶 世話人 井上 誠</p> <p>12:50 シンポジウム1 漢方研究の現状と未来を考える（その1） 座長：能勢充彦（名城大学），磯濱洋一郎（熊本大学大学院）</p> <p>13:00 粘膜免疫機構の制御からの漢方薬の薬効解析 ー補中益気湯を例にしてー 清原寛章，関谷路子，永井隆之，矢部武士，山田陽城 （北里大学・北里大学生命科学研究所 他）</p> <p>13:40 抑肝散の育薬に観る漢方研究の現状と課題 五十嵐康（（株）ツムラ・ツムラ研究所）</p> <p>14:20 休憩</p> <p>14:35 天然物を素材とした抗アレルギー成分の探索 稲垣直樹（岐阜薬科大学）</p> <p>15:15 和漢薬データベースによる天然薬物研究の活性化 櫻井宏明（富山大学和漢医薬総合研究所）</p> <p>15:55 総合討論</p> <p>16:25 休憩</p> <p>16:40 特別講演 座長：雨谷 栄（日本薬科大学） 漢方医薬の研究および教育ー国際社会における日本の役割と展望 鳥居塚和生（昭和大学）</p> <p>18:10 懇親会</p> <p>8月22日（日曜日）（第2日目）</p> <p>8:00 特別講演 座長：井上 誠（愛知学院大学） 漢方薬の研究方法論の変遷「漢方薬の薬効薬理研究は難しい！ だから面白い！」 小松靖弘（サン自然薬研究所 / 北里大学生命科学研究所）</p> <p>9:00 休憩</p> <p>9:15 シンポジウム2 漢方研究の現状と未来を考える（その2） 座長：永津明人（金城学院大学），牧野利明（名古屋市立大学大学院）</p> <p>9:25 現代がん医療における漢方の基礎的・臨床的研究の現状と展望： 伝統医学の国際標準化問題も含めて 元雄良治（金沢医科大学）</p> <p>10:05 漢方製剤の品質確保と標準化 ー安心できる医療と質の高い基 礎研究のためにー 袴塚高志（国立医薬品食品衛生研究所）</p> <p>10:45 休憩</p> <p>11:00 「薬局店頭から求められる研究～漢方作用学について～」 金 兌勝（愛知県薬剤師会，ハーブ調剤薬局）</p> <p>11:40 若手から見たこれからの生薬学 三宅克典・河崎亮一（金沢大学医薬保健学域薬学類）</p> <p>12:20 総合討論</p> <p>12:50 閉会の挨拶 次期世話人</p>
	<p>参加者数</p> <p>研究所： 1 名（うち，学生 名） 他部局： 1 名（うち，学生 名） 学外： 105 名（うち，学生28名，企業関係48名）</p>
<p>担当者 と 連絡先</p>	<p>主催者：井上 誠 TEL：052-757-6792 E-mail：minoue@dpc.aichi-gakuin.ac.jp</p> <p>研究所：櫻井 宏明 TEL：076-434-7636 E-mail：hsakurai@inm.u-toyama.ac.jp</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>特になし。</p>